



NEWS

2007 No.200

11月号

全国整備工場の皆様へNGP組合員200拠点がお届けするお役立ち情報

NGP協同組合、新体制発足

事業基盤を強固にし、 お客様の満足度を高めて環境保全に努めます 結束力を増した「強いNGP」にご期待ください

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合は10月29日、東京・品川のホテルで通常総会を開き、新体制へ移行することを決めました。めまぐるしく変わる事業環境にスピーディーに対応し、「お客様第一」をモットーに満足度の高いサービス提供に努めます。またひとつ年輪を刻んだNGP協同組合の新展開にご注目ください。

NGP協同組合は29日、創設から21回目の総会を開き、青木勝幸理事長から大橋岳彦新理事長にバトンタッチを行いました。協同組合として新組織を立ち上げ、リーダーとしてとりまとめ、事業の推進に尽力した青木前理事長は、執行部にとどまり、渉外的な役割を担って新執行部をサポートします。

トップの交代とともに、北海道から九州まで全国9支部より各1名ずつの理事が新たに選出され、大橋新理事長以下、全組合員対象から選出された6名の理事とともに、16名の執行部体制で新たなNGP協同組合の運営に携わります。

各支部から1名の理事を選出する目的は、組織の風通しを良くして、本部方針の浸透を迅速に進めることにあります。同時に総務委員会、教育委員会などの具体的な事業運営を進める委員会トップの委員長には、組合員の中からえりすぐりの若手経営者を抜擢し、斬新なアイデアで事業を進めてもらうことにしました。委員長に責任と権限を与え、スピーディーな意思決定でさまざまな活動に取り組む体制に変わります。

NGP協同組合はこれまで幾多の苦難、試練に直面してきましたが、その時々々の執行部と組合員1社1社のたゆまぬ努力、そしてお客様の応援でその都度、乗り切ってきました。お客様に支持していただいた背景には、「お客様第一」に始まるNGPの三大信条と、それに基づいてお客様に「よりよい商品を、



東京・品川プリンスホテルで開かれたNGP協同組合の第3回通常総会、青木理事長から大橋理事長にバトンをタッチし、自動車リサイクル業界の難局を乗り切る決意を新たにしました

より正確に、より早く」お届けしてきた業界内で群を抜くサービスの質にあるものと自負しています。

ただ、最近の事業環境は、決して予断を許す状況ではありません。新車も売れず、自動車のアフターマーケットも在庫車両が減少し、厳しい経営環境にあります。しかし、「地球環境保全」は全員が協力して取り組まなければならない重要なテーマです。使用済自動車の適正処理はもとより、NGP協同組合が提供しているリサイクル部品を修理に利用することは、CO₂排出量の削減効果が高く、地球環境に優しい整備を実現することになります。この

ことは、早稲田大学と日本自動車リサイクル部品販売団体協議会(JAPRA)とNGP協同組合の共同研究で明らかになっています。

NGP協同組合はこの事実を社会に周知していく努力を続け、取引先の皆様の事業支援につなげることを検討しています。大橋新理事長は「組織として変えてはならないこと、変えて行かなければならないことをしっかり見極め、戦略的政策をする理事会と、事業活動を推進する委員会とが両輪となって強い組織を作り、さらに質の高いサービスの提供に努めていきたい」と話しています。NGP協同組合の新体制にご期待ください。

新旧理事長、「課題山積」で認識は一致 整備工場の皆様に検索しやすいシステムを提供 ユーザー向けアピールも積極化する

NGP協同組合の大橋理事長以下新役員は、総会終了後、記者会見に臨み、「一致団結して組織を強化し、業界のリーダーとしての役割を果たして行きたい」（大橋理事長）などとした抱負を述べました。会見では以下のような質疑応答が行なわれました。

Q:エンドユーザー向け、整備工場向けの対策で考えていることから教えてほしい

大橋理事長: 現在、NGPダイレクトをわかりやすいシステムにして、利用を拡大することを整備工場向けの施策として検討している。同時にユーザー向けには、廃車買い取りで運営している「くるマック」のウェブサイトのリニューアルし、リサイクル部品の販売や使用済自動車の買い取りオークションなどを視野に入れた改善を実施したい。

Q:青木前理事にやり残したと思う課題、大橋理事長に抱負を

青木会長: やり残したことはたくさんある。リサイクル部品業界、解体業界の経営環境は著しく変化した。われわれ業界に回ってくる使用済自動車の量は年々少なくなっている。使用済自動車の流通経路変化に対して、エンドユーザーに自動車リサイクルの重要性を訴えて、こちらに任せてもらうようにしたい。対ユーザーPRを積極的に進めて、使用済自動車の仕入れを増やし、リサイクル部品の生産・流通を拡大すべきだ。

またNGPが業界のリーダーになるためには、株式会社NGPと協同組合組織が相



大橋新理事長、青木前理事長がそろって記者会見に臨み、協同組合の課題を述べた

互にそれぞれの視点で、事業戦略を提案しながら発展することが望ましいと思っていたが、そういう組織の活性化が実現できなかった。

大橋理事長: 課題はたくさんある。リサイクル部品について一般ユーザーの認知度を高めるために、リサイクル部品を利用することが二酸化炭素排出量を削減することになるのだということを訴えて、リサイクル部品を環境のために使うというユーザーを増やしていきたい。廃車買い取りの「くるマック」も含め、お客様とわれわれが直接向き合える環境を作っていきたい。

また、リサイクル部品の単価下落は大きな問題。使用済自動車の入庫減に起因し、低年

式車の部品在庫がたまり、在庫積み増しが価格下落を生んでいると考えている。登録した商品のヒット率も落ちている。生産したものが如何に売れるかを検討して、NGPシステムを使ってもらえる同業者、ユーザーを増やして行きたい。

Q:システム改善の具体的な計画は

田中副理事長: これからは画像が切り離せないと考えており、基幹システムに画像を取り込むように改善する。新しいシステムになり、フロント・管理業務などは大変強化されたが、生産業務の効率化が遅れた。この効率化業務改善を考えながら画像を取り込むようにする。来年6月、7月ぐらいにまでに何とか稼働させたい。

ISO9001の認証取得を披露

NGP協同組合は総会後の記者会見の席で、本部で取得した品質マネジメントの国際規格「ISO9001」の認証登録証授与式を行いました。品質ISOは、組合本部で取得したもので、9月6日付で審査機関の日本検査キューエイ（西谷徳治社長）による認証を受けています。新体制の発足に合わせて、認証取得を披露したものです。

認証取得により、組合員が生産するリサイクル部品は、本部の商品化基準に沿って部品取りされた商品で、行き届いた品質管理がなされていることをお客様にアピールできます。

日本検査キューエイの西谷社長が授与式に訪れ、青木前理事長、大橋新理事長に登録証を手渡ししてくれました。



NGPのリサイクル部品品質は、業界のメルクマール。ISO取得でさらに品質を向上させ、ユーザーに積極的にアピールする

東京モーターショーにワールドプレミア77台 「わくわく、ドキドキ」で 市場活性化への期待は高く

第40回東京モーターショーが、10月26日（一般公開は27日）から11月11日までの17日間、千葉市美浜区の幕張メッセで開催されました。自動車メーカー各社は、ショーを契機に停滞する国内市場を活性化、「わくわく、ドキドキ」をキーワードに魅力的なコンセプトカーを出展しており、エンドユーザーがどう心を動かすか、市場の反応が気になります。情報発信にも力を入れ、総出品台数542台中今回のショーで、世界で始めて公開されるワールドプレミアが77台、日本初の発表となるジャパンプレミアが103台に上りました。

乗用車ショー、商用車ショーと交互開催していたショーを再び統合し、総合ショーとして仕切り直した最初のモーターショーですが、

残念なことには少し会場が狭すぎた、という観があります。ただ、日産自動車の「GT-R」など話題の車には人だかりができており、カッコイイ車に関心があることがうかがえます。

前回のショーまで各社が力を入れていた燃料電池車は、車両モデルの展示はありましたが、車両用燃料電池そのものの展示はなく、ブームは下火になったようです。これに代わって、乗用車メーカー各社はクリーンディーゼルエンジンの展示に力を入れており、地球温暖化防止が差し迫った課題になるにつれ、日本でも低公害車としてディーゼル車が普及しだすことを予感させます。

トヨタ「i-REAL」

トヨタが提案を続けるパーソナルモビリティ。技術的進歩は著しいが、日本ではいったいどこで乗るのだろうか。進化した技術も実用化する交通制度を含めたソフトがないと宝の持ち腐れに終わる



日産「GT-Rカットモデル」

5年ぶりに復活する話題の「GT-R」。プレスデーでも人だかりで写真の撮りようが難しかったけれど、裏側のカットモデルはスムーズだった。発売日が待ち遠しいという人は多そうだ



アルファロメオ「アルファGT 1.9 JTD M」

アルファロメオのクーペ。1.9ℓの共通レール式クリーンディーゼルが搭載されている。日本メーカーがどんなパッケージングにするのかわからないが、こんなスタイリッシュなディーゼルは魅力的だ



ホンダの環境コンセプト展示

話題のエタノールは、ホンダが自社開発するエタノール製造の技術コンセプトを展示していただけ。実車は、ブラジルで販売するFFVで開発済み、後は経年使用の耐久性評価が残っているらしい



ボルボ

「C30リチャージコンセプト」

相変わらず「安全か」とボルボのブースをみると、奥に配置されていたのが、プラグインハイブリッドEV。ワゴンではなく、セダンのC30がベースで、1充電で100kmは走るというのだが…



スズキ「Kizashi 2」

スズキのイメージを大きく変える新ジャンルのクロスオーバー・スポーツワゴン。トップアスリートをイメージしたボディに3.6ℓのV6ガソリンエンジン、6速ATを搭載している

総会で優良事業者と優良支部、MS50優秀支部を表彰 MS50生産トップは北陸支部、売上トップは九州支部

NGP協同組合は10月29日に都内のホテルで開いた総会で、優良事業者、優良支部および前期の2年間取り組んできたMS50の優秀支部を表彰し



クレーム発生率の低いクレストパーツ、まるふく八田商会、エビス、ハセ川自動車の4社とともに北海道支部の努力が優良事業者・支部として称えられた

ました。優良事業者、支部表彰は今回、初めて実施することにしたもので、年間の取引件数に対してクレーム発生率の少ない事業者、支部に贈ります。

優良事業者は取引件数の規模に応じて、上位4社を表彰しました。表彰された組合員は、クレストパーツ(岡山県倉敷市)、有限会社まるふく八田商会(北海道上川郡剣淵町)、株式会社エビス(広島県安芸郡坂町)、株式会社ハセ川自動車(富山県魚津市)でした。副賞として「スナップ・オン」の高級工具セットが贈られました。また、支部表彰は力を合わせて取り組んだ北海道支部が受賞しています。

クレームは品質不良、形状違い、出荷ミス、納期遅れ、運送ミスなどすべてのクレームを対象

にカウントしています。

一方、過去2年間取り組んできたMS50に関しても、達成率を基準に実績を上げた支部を表彰しています。MS50はリサイクル部品の生産、販売に力を注ぎ、トップブランドとしての実力を示すことを目的にしたものです。部品生産のトップは109.8%の実績を上げた北陸支部、売上では106.8%の九州支部がトップで、NGP協同組合の事業に貢献した両支部に表彰状を贈り、努力をたたえました。



MS50の総括として、リサイクル部品生産トップの北陸支部、販売トップの九州支部が表彰された

品川駅でリサイクル部品の利用促進を呼びかけ

NGP協同組合は10月18日、東京・品川駅の西口で自動車リサイクルの啓もうと中古・再生部品の利用拡大を呼びかけるチラシ配布を行いました。チラシの配布は、国の「リサイクル推進月間」に合わせて、自動車リサイクル関連業界を上げて取り組んでいるもので、NGP協同組合は昨年引き続き、本部のある品川駅の駅頭を舞台に自動車リサイクルを呼びかけました。

当日は宮地専務理事を筆頭に10人ほどの本部職員が参加、NGP協同組合が第2ブランドとして立ち上げた「くるマック」のティッシュとともにエンドユーザーに業界統一のチラシを手渡しました。

自動車リサイクル部品はエンドユーザーの認知がまだ低いと言われていますが、なかには「整備工場で話を聞いたことがある」となどというユーザーも出てきています。NGP協同組合は今後もこう

した地道な活動を継続するとともに、「エコプロダクツ」のような展示会の機会に広く告知し、市場の拡大を図りたいと考えます。



エンドユーザーに認知を深めてもらうには、地道な努力の積み重ねが重要だ

西川商会が「地域ブランドフェア2007」(鳥取)に単独出展 環境貢献と自動車リサイクル部品の取り組みをPR

NGP協同組合の有限会社西川商会(西川正克社長、鳥取県鳥取市)が、11月2日から4日まで鳥取市の鳥取県民体育館で開かれた「とっとり発 地域ブランドフェア2007(とっとり産業技術フェア)」に単独で出展しました。同フェアは県や鳥取県産業振興機構などが主催し、地域資源を活用した地域の中小企業、その製品をPRするために開催されているもので、今回で13回目になります。

フェア開催に先立ち、「第12回北東アジア地域国際交流・協力地方政府サミット」が県内で開か

れたことで、フェアに「北東アジア輸出商談会」が併催され、海外からのお客様も多数訪れました。

この中で、西川商会は「環境・エネルギー資源ゾーン」にブースを設け、使用済自動車の適正処理技術やリユースを促進する自動車リサイクル部品をPR。自動車リサイクル業として環境保全のために高度なノウハウを持ち、創意工夫で事業に取り組んでいることを示しました。会場には社員が交代で詰め、くるマックのティッシュ、ボールペンとメモ帳のセットを来場者に手渡し、PRに努めました。

取引先のディーラーにも声をかけ、解体業者の活動や現場の様子を知ってもらった



産業振興が主目的なフェアだけに、幅広い来場者に使用済自動車の適正処理と自動車リサイクル部品をPRできた

訃報

10月10日、リ・パーツ株式会社坂井自動車(新潟県新潟市)瀬倉憲一取締役事業部長のご母堂、瀬倉五百子(せくら・いおこ)様のご逝去されました。享年89歳。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209
http://www.ngp.gr.jp

(株)NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201